

幸せであると存じます。

ここに村誌発刊にあたり所懐を述べますとともに、本誌の編集に当たっていただいた委員諸氏の御苦勞に對し勞をねぎらうとともに本誌編集の稿をまとめ最終完結の御勞作を賜わり、表紙の題字に揮毫もいただいた船本数江氏の格別なる御努力を心より衷心御礼を申し述べまして序と致します。

昭和四十三年十月二十三日

日吉村長 清家 紫朗

## 目次

第一章 自然誌	一	第三章 集落及び自治の変遷	四五
第一節 位置及び面積	一	第一節 沿革	四五
第二節 地質	二	(一) 集落及び自治体	四五
第三節 気象	四	(二) 理事機関	四七
第四節 生物	五	(三) 議決機関	五八
(一) 植物	五	第二節 村名大字名の由來	七二
(二) 動物	六	第四章 地積及び戸口の変遷	七五
第五節 変災	八	第一節 地積の推移	七五
第六節 変災対策及び消防団	一三	第二節 戸口	七八
第二章 人文誌	一六	第五章 官公署及び駐在機関	八〇
第一節 沿革	一六	第一節 庄屋所	八〇
第二節 武左衛門を中心とする農民一揆	二四	第二節 官公署	八二
第三節 宮の下騒動	四一	(一) 警察	八二
		(二) 日吉郵便局	八三

(三) 父野川郵便局……………八五  
 (四) 松山地方方法務局日吉出張所……………八五  
 (四) 伊予大洲自動車営業所日吉支所……………八六  
 第三節 駐在機関……………八七  
 (一) 農業改良普及員……………八七  
 (二) 林業経営指導員……………八七  
 (三) 四国配電日吉散宿所……………八七

(二) 村の子算、決算……………一一〇  
 (三) 村有財産……………一一二  
 第七章 生 業……………一二七  
 第一節 沿 革……………一二七  
 第二節 農 業……………一二九  
 第三節 林業・鉱業・工業……………一二三  
 第四節 商業その他……………一二五

第六章 経済及び財政……………八九

第一節 経済の推移……………八九

第二節 経済団体……………九七

(一) 農業協同組合……………九七  
 (二) 森林組合……………一〇〇  
 (三) 銀行……………一〇一  
 大洲銀行日吉出張所……………一〇一  
 愛媛相互銀行……………一〇一  
 高知相互銀行……………一〇二  
 (四) 日吉商工会……………一〇二  
 (四) 日吉村養蚕農業協同組合……………一〇三  
 第三節 財 政……………一〇四  
 (一) 租税の沿革……………一〇四

第八章 教 育……………一二九

第一節 教育制度の変遷……………一二九

(一) 藩政時代……………一二九  
 (二) 明治維新後……………一三〇  
 第二節 学校教育……………一三六  
 (一) 日吉小学校……………一三六  
 (二) 父川小学校……………一四一  
 (三) 日吉中学校……………一四二  
 (四) 富母里小・中学校……………一四三  
 (四) 村内各学校の教師及び児童生徒の変遷……………一四四  
 第三節 その他の学校……………一五〇

(一) 県立北宇和高等学校日吉分校(定時制)……………一五〇  
 (一) 私立日吉実業学校……………一五一  
 第四節 社会教育……………一六三  
 (一) 制度及び沿革……………一六三  
 (二) 公民館……………一六五

第三節 寺 院……………一九三  
 (一) 如意山医王寺……………一九四  
 (二) 泉福山宗楽寺……………一九五  
 第一章 民 俗……………一九六  
 第一節 概 説……………一九六  
 第二節 衣食住……………一九七  
 第三節 年中行事……………一九九  
 第四節 冠婚葬祭……………二〇三  
 第五節 言 語……………二〇六  
 第六節 俗謡、娯楽……………二〇七  
 (一) 俗 謡……………二〇七  
 (二) 娯 楽……………二一一

第五節 教育委員会……………一七〇

第九章 軍 事……………一七三

(一) 明治二十七、八年戦役従軍者……………一七四  
 (二) 明治三十七、八年戦役……………一七四  
 (三) 大東亜戦(第二次世界大戦)……………一七六

第一〇章 宗 教……………一八五

第一節 概 説……………一八五

第二節 社 社……………一八七  
 (一) 日向谷(綿津見神社)……………一八八  
 (一) 上鍵山(日吉神社)……………一八九  
 (三) 父野川(黄幡神社)……………一九〇  
 (四) 上大野(熊野神社)……………一九一  
 (四) 下鍵山(大日吉神社)……………一九二

第一二章 民 生……………二二三

第一節 民生事業制度の沿革……………二二三  
 第二節 本村の民生事業……………二二五  
 (一) 生活保護……………二二五  
 (二) 老令福祉年金……………二二六  
 (三) 身体傷害者……………二二六

四 保育所	二二七
四 診療施設	二二七
四 上水道施設	二二九
四 民生委員その他	二三一

第一三章 交通・通信

第一節 交通	二二五
(一) 道路の開設	二二五
(二) 交通機関	二四七
第二節 通信	二四八

第一四章 名所旧蹟

第一節 概説	二五二
第二節 史蹟	二五三
(一) 勝山城址	二五三
(二) 萩森城址、出口城址	二五五
(三) 神社、寺院、墓地	二五七
(四) 宮母里の水銀鉱	二五八
第三節 名勝	二五九
(一) 勝山城址	二五九

(一) 武左衛門広場	二五九
第四節 天然記念物	二六〇

第一五章 人物小伝

(一) 井谷正命	二六二
(二) 寺部知性	二六六
(三) 立野幸潤	二六七
(四) 武左衛門	二六九
(五) 日の出山事、吉川清治	二七〇
(六) 芝四郎兵衛	二七一
(七) 大野作太郎	二七二

附 日吉村史年表

あとがき	二七九
------	-----



第一章 自然誌

第一節 位置及び面積

県都松山市からは、西南に、又郡の中心地である宇和島市からは、約五キロメートルを隔てた北部に、郡内最北端、高知県境にある。その領域は、東経一三二度四二分から四六分、北緯三三度一五分から二二分に及び、東北部は、高知県幡多郡十和村、高岡郡櫛原村に、西北は、東宇和郡城川町に、西南は、広見町大字川上に、東南は、松野町吉野生に境している。いずれも、高峻の分水嶺を村境としているが、ただわずかに、西南部の広見町大字川上と、西北部東宇和郡城川町大字高野子との村境は、平坦部で接続している。村境の高峻には、地藏山の一、〇九〇メートルを最高として、高研山(一、〇五八メートル)、御在所山(九〇八メートル)の他長山その他一、〇〇〇メートル級の山々が、そそり立ち、それ等の支脈が、それぞれ村内を縦横に走り、文字どおりの山村で、その間に、父野川、日向谷川、上鎌山川をはさんでいる。この流域に、若干の

平坦部があり、そこに、人煙が点在し、鋸の歯のように起伏に富んだ山裾を染めている地域が、わが日吉村である。

面積は、東西の最長約一〇キロメートル、南北約一五キロメートルに及ぶ八八・九一平方キロメートルで、その大部分が山林面積である。地目別に見ると次のとおりであるが、このうち山林面積については、現在の土地台帳の面積と、実面積の間には、かなりの開きがあると思われるが、いまだ、国土調査をしていないので、多分に推計を加味した数字ではあるが、一九六〇年世界農林業センサスとして、農林省統計調査部がまとめた、資料「市町村別統計書」の数字をカッコ内に対比した。より実際に近い数字と思われる。

田	一三七・六	ヘクタール
畑	一七〇・五九	〃
宅地	二三・一〇	〃
山林	八一三・〇〇	〃
(八、四五三・〇)		